

**【総 評】**

午前試験は、テクノロジ系の計算・事例系の問題が多く、手間のかかる問題や難しい問題も見られたため、全体としてはやや難しめであったといえます。

午後試験では、必須問題のアルゴリズムが複雑な内容であったことも影響し、前回より難易度は高めでした。

**【午前】**

今回の午前試験の出題内訳は、以下のようになっており、例年通りの出題数になっていました。今後も、出題割合が大きく変わることはないでしょうが、前回(平成28年春)のように1問程度の増減はあると考えてよいでしょう。今回

|    |                |
|----|----------------|
| 内訳 | テクノロジ系：50問     |
|    | 基礎理論：8問        |
|    | コンピュータシステム：15問 |
|    | 技術要素：22問       |
|    | 開発技術：5問        |
|    | マネジメント系：10問    |
|    | ストラテジ系：20問     |

テクノロジ系では、50問中23問程度が計算や事例系の問題であったため、解答に時間のかかる出題構成であったといえます。また、その影響もあり、テクノロジ系全体として難易度が高めの問題が前半に多く見られました。特にネットワークまでの前半35問を解いた段階で、受験者の多くが「今回の午前問題は難しい」という印象をもったと思われます。一方、後半の情報セキュリティやシステム開発では、「rootkit、パスワードリスト攻撃、ビヘイビア法」といった新出問題(新しいテーマの出題)がありましたが、例年通りともいえるので、大きな影響はないでしょう。テクノロジ系全体では、手間のかかる計算や難しい事例問題の数が、比較的少なかった前回と比べると大きく増加したため、やや難しかったといえるでしょう。頻出テーマや易しめの問題を確実に正解できたかが重要といえます。

後半のマネジメント・ストラテジ系では、クラッシング、4C、技術のSカーブなどの新用語やOC曲線や定量発注方式のひねった問題もありましたが、過去問題の流用や頻出テーマも多く見られたので、標準的な難易度でした。

午前全体で見ると、過去問題の流用も例年どおり多くみられましたが、前半のテクノロジ系の難易度が高めであったため、「やや難しい」という印象です。難問はある程度仕方がないとしても、頻出テーマなどの「易しめ～標準的な問題」を確実に正解できたかが、午前試験合格には重要となります。今後もテキスト学習及び過去問を中心とした演習により、知識を確実なものにしておく必要があります。

## 【午後】

午後試験の選択問題(問 2～7)では、次の分野から出題され、2 回連続でハードウェアが出題されませんでした。同じ分野が 2 回はずれたのは初めてのことでありますので、驚いた方も少なくないでしょう。

問 2：ソフトウェア

問 3：データベース

問 4：ネットワーク

問 5：ソフトウェア設計

問 6：プロジェクトマネジメント

問 7：システム戦略

必須問題の問 1(情報セキュリティ)は、営業員が顧客先でタブレットを用いて見積書の作成・提示を行えるようにするための販売支援システムの構築を背景に、このシステムのセキュリティを考えさせる問題でした。Web サーバ及び DB サーバの適切な配置場所、ファイアウォールのフィルタリング設定などが問われています。類似問題を解き、この手の“ファイアウォールを含むネットワーク構成”に関するセキュリティの問題に慣れていれば、解き易い問題であったといえます。

選択問題(問 2～7)は、問題によって解答時間や難易度に多少差があった印象がありますが、どれも解答可能な空欄や設問が必ずあり、全滅するような問題はなかったといえます。全体としての難易度は、標準的です。

問 2(ソフトウェア)はコンパイラの字句解析と構文解析の問題でした。過去に類似問題が出題されていますので、その演習経験があれば解き易かったと思われます。問 3(データベース)では、IN 述語が多用されていたので、この知識が不可欠でした。問 4(ネットワーク)は、ブラウザとサーバ間の転送時間に関する計算問題が出題され、あせった方もいたでしょうが、見ためよりは解き易い問題になっていました。問 5(ソフトウェア設計)はレンタル業務システムの設計をテーマとした問題であり、UML のクラス図とシーケンス図が使用されています。問題文のボリュームが多く、ヒントを見つけづらいこともあり、難易度はやや高めです。問 6(マネジメント)及び問 7(戦略)は、どちらもやや易しめ～標準的な難易度の問題です。どちらも計算に重きを置くのではなく、その結果などの分析が重要視されていました。

必須問題のアルゴリズム(問 8)は、編集パターンに従って数値を編集するプログラムが出題されました。編集パターンに現れる記号及びフラグの組合せによって文字を決定するのですが、組合せの数が多く複雑なため、設問 1 ではミスをしないうちに落ち着いてトレースしなければなりません。後半は、プログラムと表を見比べながら、各組合せに共通する条件をうまく洗い出せるか、がポイントでした。こういった問題では、焦りは禁物です。どれだけ冷静に読み取れたかが、正答率に影響したと思われます。難易度はやや高めです。

後半のプログラム言語及び表計算(問 9～13)では、問 12 のアセンブラで「リスト構造」が扱われたのが特徴的でした。リスト構造を苦手とする方は少なくないと思われるので、今回は問 12 のみ難易度が高かったといえます。その他の言語は、多少難しい空欄もありましたが、全滅するような問題ではなく標準的な難易度でした。

今回は、必須問題である問 8 のアルゴリズムがやや複雑でミスしやすい内容だったので、午後試験全体としてはやや難しかったといえるでしょう。易しめだった前回と比較すると、平均点は下がると予想されます。

## 【予想配点】

### 【午前】

各 1.25 点

### 【午後】

問 1 (配点 12 点)

設問 1 3 点

設問 2 3 点

設問 3 a～c—各 2 点

問 2 (配点 12 点)

設問 1 a, b—各 2 点

設問 2 c, d—各 2.5 点, e—3 点

問 3 (配点 12 点)

設問 1 a～d—各 1 点

設問 2 e—2 点

設問 3 f—3 点

設問 4 g—3 点

問 4 (配点 12 点)

設問 a～d—各 3 点

問 5 (配点 12 点)

設問 1 a, b—各 3 点

設問 2 c, d—各 2 点

設問 3 e—2 点

問 6 (配点 12 点)

設問 1 a—2 点

設問 2 b～f—各 2 点

問 7 (配点 12 点)

設問 1 a～c—各 1.5 点

設問 2 d—1.5 点, e, f—各 2 点

設問 3 2 点

問 8 (配点 20 点)

設問 1 a～c—各 3 点

設問 2 d—4 点, e—3 点

設問 3 f—4 点

問 9 (配点 20 点)

設問 1 a～d—各 3 点

設問 2 e, f—各 4 点

問 10 (配点 20 点)

設問 1 a—3 点, b—2 点, c, d—各 3 点

設問 2 e～g—各 3 点

問 11 (配点 20 点)

設問 1 a—2 点, b～e—各 3 点

設問 2 f, g—各 3 点

問 12 (配点 20 点)

設問 1 a～c—各 4 点

設問 2 4 点

設問 3 4 点

問 13 (配点 20 点)

設問 1 a～c—各 3 点

設問 2 d—4 点, e—3 点, f—4 点

以上